

平成26年度 第3回大和市総合計画審議会 会議録

- 1 日 時 平成27年1月26日(月) 9時30分～10時50分
- 2 場 所 大和市保健福祉センター 5階 501会議室
- 3 出席者 委員12名
(井川、池田、遠藤、大津留、川淵、田中(孝)、田中(寛)、谷中、仲、中林、長谷川、平田)
- 4 傍聴人 なし
- 5 次 第
- 1 開会
- 2 議題
- (1) 第8次大和市総合計画における施策評価について
- 各部会長による状況報告
- 第1評価部会(10月30日、11月26日)
- 第2評価部会(11月6日、11月25日)
- 3 その他
- 今後の予定 ほか
- 6 会議資料
- | | |
|-------|----------------------------------|
| 資料1-1 | : 平成26年度施策評価(二次評価・個別目標1-1)シート(案) |
| 資料1-2 | : 平成26年度施策評価(二次評価・個別目標1-3)シート(案) |
| 資料1-3 | : 平成26年度施策評価(二次評価・個別目標6-1)シート(案) |
| 資料1-4 | : 平成26年度施策評価(二次評価・個別目標7-2)シート(案) |
| 資料2-1 | : 平成26年度施策評価(二次評価・個別目標3-1)シート(案) |
| 資料2-2 | : 平成26年度施策評価(二次評価・個別目標4-1)シート(案) |
| 資料2-3 | : 平成26年度施策評価(二次評価・個別目標5-2)シート(案) |
| 資料2-4 | : 平成26年度施策評価(二次評価・個別目標7-3)シート(案) |
| 資料3 | : 今後の総合計画審議会の進め方(案)について |

【議 事】

- 会長 : 議題(1)第8次大和市総合計画における施策評価について、事務局に資料の説明を求める。
- 事務局 : **【資料1-1～1-4、2-1～2-4について説明】**
- 会長 : それでは、第1評価部会の部会長から、評価内容の報告をお願いしたい。
- 委員 : 資料1-1及び資料1-2は、前回の全体会で報告しているため、資料の1-3と1-4の評価について、説明する。
資料1-3は個別目標6-1「いつでも学べる場と機会を充実する」である。

このうちのめざす成果の6-1-1「生涯学習に取り組む人が増えている」では、成果を計る主な指標の「市民一人あたりの年間利用回数」が伸びていないことについて、どのように対応していくべきか、意見交換が行われた。その中では、幅広い人が集まるように、魅力ある講座を開くべきであるとか、相模原市で行っている市民と大学の交流などを大和駅東側第4地区にできる新学習センターにも導入してはどうかという意見が出された。

めざす成果6-1-2「読書をする人が増えている」については、成果を計る主な指標の「市民一人あたりの図書年間貸出冊数」が伸びているので評価できるという意見や、図書館の蔵書を充実させていくうえで、青少年のために「YA図書」コーナーを設置していくことが望ましいとの意見が出された。また、大和駅東側第4地区が「いつでも学べる場と機会を充実する」という個別目標を達成するための施設となるよう、魅力的な運営が必要になってくるという議論になった。これらは、評価シートの「追加の評価の欄」や「今後の施策展開に向けて」の欄に記載されている。

資料1-4は個別目標7-2「にぎわいのある地域をつくる」である。めざす成果の7-2-1から7-2-4まで4つある。この4つは、言い換えると、商工業、労働、農業、観光・イベントに大別できる。

めざす成果7-2-1「商店街や企業が活発に活動している」では、商業に関連し、成果を計る主な指標に市民意識調査結果の「大和市は買い物しやすいと思う市民の割合」が平成23年の時より上昇していることについて、活発な意見交換が行われた。意識調査の結果を回答者の年齢や居住エリア別にひも解いてみると、推測の域は出ないものの、恐らく大型チェーン店を意識した回答ではないかとの結論に達した。このため、地元商店街が活性化していくために、何らかの方策を検討する必要があるとの評価になった。

めざす成果7-2-2「市内で働く人が増え、生き生きと働いている」については、雇用情勢が厳しい中で、特に若者でコミュニケーションの面などで課題を抱えている人が増えていることから、きめの細かい支援が必要ではないかという意見が出された。

めざす成果7-2-3「地域農産物の消費が安定的に行われている」については、直売所で野菜を売る農家の数が、維持されており、都市化が進んでいる大和にあっては、それだけでも評価に値するのではないかということになった。

めざす成果7-2-4「大和」に多くの人が訪れている」では、既に行われている「大和阿波踊り」などが、市民のために行われているのか、踊り手のために行われているのかが判然としない。多くの人が訪れているというめざす成果を求めるのであれば、遠方からも見物人が訪れるような魅力あるイベントを増やしていかなければならないという意見が出された。

個別目標7-2の全体を通しては、やはり、大和駅東側第4地区の文化創造拠点の開館を「にぎわいのある地域をつくる」ための好機として捉え、オープン前から情報発信に努めるとともに、反面教師も含めた先行事例をしっかりと捉えながら、魅力ある地域を創っていく取り組みが求められるのではないかと評価になった。これらは、評価シートの「追加の評価の欄」や「今後の施策展開に向けて」の欄に記載されている。

- 会長 : 質問や意見はあるか。
- 委員 : 個別目標6-1の生涯学習は、リタイアした人が取り組むものと捉えられがちだが、本来は、子どもからお年寄りまでが一般的な教育とは別の観点で学んでいくものであり、今後は、福祉関係の講座などの充実が必要ではないか。また、読書については、電子書籍の普及が進んでいることから、図書館に行かずに読書活動をしている人も増えていると考えられる。今までと違った角度から、読書の推進に関する取り組みも展開していくべきではないかと考える。
- 個別目標7-2の商業に関連して、他市で行ったアンケートでも、商店街の利便性に対しては低い評価だが、市全体の買い物の利便性に対しては高い評価が出ている。個店に相当の魅力がない限り、消費者は価格の低い大型店に集まってしまう。就労に関する施策について、大和市は都心のベッドタウンになっており、市内で就労の機会を確保していくことは、現実的に難しいと思うので、高齢の方や女性の就労を意識してはどうか。また、大和市に多くの人を訪れているという施策については、横須賀市では定住者を増やしていくための取り組みを積極的に実施している。大和市も厚木基地の影響で、定住志向は高まりにくいと思うので、イベントで人を集めることと定住志向を高めていくための取り組みをバランスよく進めていくべきではないか。文化創造拠点に関し、他市でうまくいっていないケースのほとんどは指定管理者を選定する際に、市の思いを業者に伝えきれていないことに原因があると考えられる。
- 委員 : 都市農業では、特に後継者の問題が課題となると思うが、そのあたりの対応策については、どのような評価を行ったか。
- 委員 : 個別目標7-2で取り扱う農業は地産地消の施策であり、農地の面積や後継者の問題など根本となる農業の問題は、個別目標4-3「まちの緑を豊かにする」で整理されと考え、評価は行っていない。
- 会長 : めざす成果7-2-1に関連して、大和市は大型店が多くて車で買い物に行く人には便利かもしれないが、高齢化がさらに進めば車で大量に購入できる人も減ると考えられる。地方では買い物バスもある。市民意識調査「大和は買い物がしやすいと思う市民の割合」の回答を属性別にみていくと、高齢の人ほど満足していない。地元商店街が繁栄できれば、将来的に高齢の人たちの購買の選択肢になり得るかもしれない。また、大和駅東側第4

地区に設置される文化創造拠点の指定管理の契約は、後々のことを考えれば、柔軟なものにしておくことが望ましいのではないかと。

事務局 : 文化創造拠点の指定管理者については、管理者選定後、運営面での詳細を詰める調整期間を1年間設けているので、市の思いや考えをその場でしっかりと伝えることになる。本日のご意見を担当の事業主管課にも伝えていきたい。

会長 : それでは、第1評価部会でまとめた評価について、本日の審議会で出された意見を踏まえ、少し補足的な説明を加えることでよいか。

一同 : 異議なし。

会長 : 続いて第2評価部会の副部会長から、評価内容の報告をお願いしたい。

委員 : 資料2-1及び資料2-3は、前回の全体会で報告しているため、資料の2-2と2-4の評価について、説明する。

資料2-2は個別目標4-1「地球にやさしく活動する」である。めざす成果は4-1-1「二酸化炭素の排出量が削減されている」、4-1-2「ごみの減量化、資源化が進んでいる」、4-1-3「ごみのない清潔なまちが維持されている」の3つで、一体的に評価を行った。個別目標4-1に関わる施策は様々行われているが、成果を計る主な指標で前期基本計画に定める最終目標値に達していないものが多いので、その原因の分析に努めるべきであるとの意見が出された。また、行政が「環境への配慮」や「環境配慮行動」という表現で、市民への啓発などを行うケースがあるが、実際にどのような行動が環境に優しいのかが分かりにくいという意見も出された。ごみの減量化に関しては、今後、高齢化が進むことで、行政側が期待する通りにごみを出すのが難しくなる人も増えていくので、障がい者や外国人市民も含めて、きめの細かいごみ出し支援が必要ではないかという意見が出された。これらは、評価シートの「追加の評価の欄」や「今後の施策展開に向けて」の欄に記載されている。

資料2-4は個別目標7-3「地域活動・市民活動を活発にする」である。めざす成果は7-3-1「地域の活動が活発に行われている」と7-3-2「公共を担う市民や事業者が増えている」である。2つのめざす成果に関連して、これまでは、定年を迎えた人や高齢の方が、地域活動や市民活動に携わる流れがあったが、近年は、趣味を追求したり、再就職したりする人が増えて、地域活動や市民活動の担い手が減ってきている。いわゆる「団塊の世代」を中心とする人たちが、自発的に地域活動に関わっていけるような社会にしていくことが必要ではないかという意見が出された。またコミュニティセンターについては、サークルの練習などの団体利用が一般化しているので、地域住民が幅広く利用できるような、施設運営を検討する必要があるのではないかという意見が出された。

また、第2評価部会でも、大和駅東側第4地区に文化創造拠点が完成すれ

ば多くの人が集まるので地域活動や市民活動の活性化に活用できないかという意見が出された。

評価に携わっての感想だが、高齢化は全ての施策に大きな影響を与えるものであり、これまで行われてきたことも今後はできなくなるのではないかと感じている。この問題の解決を行政に求めても難しいと考えられる。そのため公助ではなく、近隣で助け合う「近助」とも言われる共助の視点が重要で、今後、行政に求められるのは、その部分をつなぎ合わせていく役割ではないか。地域福祉というと、福祉の話に終始して縦割りになりがちだが、地域で抱えている課題は、防災や環境などもあり、福祉に限らない。福祉部局以外も含め地域力を強化していく取り組みが必要ではないかと思う。地域力が向上することで、就労面のサポートなどもできるようになると考えられる。また、国が進めようとしている地方創生総合戦略の成否にも関わってくると考えられ、今後のまちづくりの重要な要素である。

- 会長 : 質問や意見はあるか。
- 個別目標4-1に関し、一般ごみは戸別収集となっているが、資源ごみは集積所まで持っていかなければならず、量によっては1回では出し切れない。高齢化はさらに進むので、支援のあり方を検討する必要があるのではないかと思う。
- 委員 : 個別目標7-3について、平成24年度に実施した施策評価でNPOの活動支援に触れているが、NPOには専門のスキルを持った人がいないので、監査の際の会計報告は大きな負担である。その会計資料の作成をボランティアでしてくれる人を行政で結びつけてくれるような部署があればいいと思う。また、他市では、生活が厳しくて塾に行けない子どもとボランティアの橋渡しをして、学習のサポートを行っているところもあるので、そのような取り組みもあるといい。また、外国人市民を災害時にフォローできるようなボランティアも必要であると思う。
- 事務局 : 大和市では、小学校において教員のOBなどが放課後の学習をサポートする「放課後寺子屋やまと」を開催している。新年度からは全19校で実施する予定である。災害時に外国人市民をどのようにフォローしていくのかということについては、公益財団法人大和市国際化協会の協力を得ながら、取り組みを進めているところである。
- 委員 : 「放課後寺子屋やまと」は良い取り組みであると思うので、最も必要な時期と考えられる中学生にも対象を拡大してもらいたい。
- 会長 : 災害時の外国人市民のフォローという点では、日頃の近所との付き合いも重要ではないかと思う。また、NPO法人の会計報告は、不適切な経理の問題が明るみになってから厳しくなってしまった経緯がある。NPOの本来業務がしっかり行えるよう、経理の部分を支援できる人を増やしていくことが必要ではないか。

- 委員 : ボランティアとして募集しても人は集まりにくい。一方で、地域貢献をしたいという人は多いので、NPO法人を増やすことに加え、会社をリタイアした人などは経理に関するスキルを持っていると思うので、うまく活用していくような取り組みが求められる。
- 会長 : 本日各評価部会から報告のあった、資料1-1から1-4及び、資料2-1から2-4を総合計画審議会による評価とする。
-

【その他】

- 事務局 : **【資料3について説明】**
今年度は、21ある個別目標のうち、8つの個別目標について評価が終了したことになる。年度当初の審議会で、3年間かけて評価を行うことについて各委員から了解が得られていたが、評価が順調に進んだこともあり、現在の委員の任期中に全ての評価を実施していただくことの方が、より適切と考えている。委員の皆様の了解が得られれば、新年度の1年を含めた2年間での評価をお願いしたいと考えている。
- 会長 : 3年かけると、次の委員が残りの個別目標の評価を新たに行うことになる。それよりも、現在の委員でまとめて行った方が、一貫性があるという事務局の考えだと思うが、どうか。
- 一同 : 異議なし。
- 会長 : それでは、平成27年度、若しくは現在の委員の任期中に、残りの個別目標の全てについて、評価を行っていくこととする。
-

以 上